

広報部便り

特集「日本の心、日本の言葉」はいかがでしたか。阿刀田さんとアーサーさんの対談では、紙面に紹介しきれないほど、たくさんのお話をお聞きました。

何より印象的だったのが、お二人が、とても楽しそうに古典を語っていらしたこと。「まず大人が古典に親しむ」というお話もありましたが、こんなにも楽しく古典を語る大人が近くにいたら、子どもは自然と古典が大好きになるだろうな…と感じました。

23年度版教科書では、数多くの「伝統的な言語文化」に関する教材を1年から6年まで系統的に配し、折にふれて古典に親しめるようにしています。子どもたちも先生

方も古典に楽しんでいただけるよう、さまざまな工夫しておりますので、ぜひご覧いただければと思います。

次号でも引き続き、23年度版教科書を集めます。「国語力を伸ばす」というテーマで、今求められる国語力とは何か、その力をつけるために教科書にどのような工夫がされているのか、具体的にご紹介する予定です。

また、青山由紀先生（筑波大学附属小学校）の古典授業をリポートする新連載がスタートします。子どもたちが古典と出会ったときの面白いエピソードや、古典を教えることの楽しさをお伝えしたいと考えております。どうぞご期待ください。

お知らせ

移行期関連資料について

弊社ホームページに、「移行期関連資料」が掲載されていますので、ぜひご活用ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/Data/ikou/>

■国語

移行期の年間計画 (1～6年)	現行教科書の単元・教材について、時数や扱い方が変わるところをわかりやすく示した年間計画です。
移行措置資料付「学習材例」 (1～6年)	現行教科書の単元・教材の扱いに、新しい学習活動・指導内容を組み込んで、指導の展開例などを示しました。
移行期の指導に向けて(学年共通)	新学習指導要領の特徴や、移行措置の要点をまとめた資料です。
学習指導要領新旧対照表 (低・中・高学年)	新旧の学習指導要領を並べて表示し、変更された部分や、新規で加わった点をわかりやすく示しました。
移行期の指導のために (学年共通)	「古典を楽しむ」「知って安心『PISA 型読解力』」…など、新学習指導要領の特徴的な部分をピックアップし、解説しました。

■書写

移行措置のポイント(学年共通)	学習指導要領の＜新・旧＞対照表や、低・中・高学年それぞれの移行措置のポイントを示しました。
移行措置資料(1～6年)	移行措置に関連する指導要領の新規事項をわかりやすく示した年間指導計画です。